

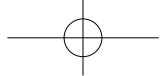


絶版バイクに乗るキツカケは、十人十色でストーリーがある。
 好きなメーカー、購入する車種にも人それぞれ理由が存在する。
 絶版車の何に魅せられて、どんな魅力を感じているのか？
 絶版ウエマツに通うオーナー達、
 彼らが愛車に込めた熱き想いをクローズアップする。

絶版車に魅せられて。

ZEPPAN UEMATSU Presents





夫は男の夢カワサキ乗り
妻はマン島TTレース好き

カワサキKZ1000にタンデムで仲良く颯爽と跨る、でゆるんさん&ミニーさん夫婦。夫・でゆるんさんがバイクに興味を持ったきっかけは、「走り屋をやりたいかった」と笑う。カドヤの黒い革ジャンにハンチング帽を被り、茶色い眼鏡もお洒落な装いだ。

奥様のミニーさんも、金髪にサングラス、スカートのマスクが洒落ている。もちろんバイクが大好きで、普段はハーレー乗りでもある。「このカワサキKZに乗って、夫婦



KAWASAKI **KZ1000**

OWNER NAME

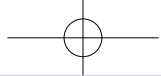
でゆるん(48歳)&ミニーさん夫妻

で初めてタンデムできました」と話す。そんな彼女はTTロゴ入りパーカーを指差して、伝統・伝説のマン島TTレースを現地で十数回も観戦するほど熱狂的なファンなのだと教えてくれた。

愛車KZ1000は1978年式のタイガー外装で、オリジナルを活かした仕様だ。エンジン回りにはアールズのオイルクーラー、油圧クラッチ、ミスティのメッキ管も鳴らす。サスはオーリンズを装着した。今後のカスタム予定は、外装リペイントとブレーキ強化を考えているそうだ。これからも未永く仲良く、カッコ良く絶版バイク乗りパートナーとして走り続けるだろう。

愛車KZ1000の仕様は、タイガー外装にアールズ・オイルクーラー、油圧クラッチ、ミスティ管、オーリンズ・サスを装着する。黒のモトーンで合わせたファッションは、とてもお洒落な夫婦コーデだ。

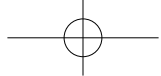




絶版車に
魅
せられて。

カワサキの大型に乗りたくて
夫婦でタンデム走行を楽しむ





KAWASAKI Z1
OWNER NAME
 荒井 康一さん(58歳)

愛車のカワサキZ1は73年式で、小学生の頃から夢だった。現在のカスタム仕様は、赤いカフェレーサー外装にBEETサイドカバー、ゼファー750の足回りを移植し、CRキャブとモリワキ管を奏でている。

ZUOCの赤ジャンパーが走りのトレードマーク

ZUOC（絶版ウエマツ・オーナズ・クラブ）のツーリングで、隊列を先導するベテランライダーの荒井さん。複数所有する愛車の1台が、このカフェレーサー仕様のカワサキZ1だ。

6歳の頃にモーターショーでホンダCB750Four KOを見て以来、父親も乗っていた大型バイクに興味を持ち始めたと振り返る。「小学生の頃から、大人になったらZ1に乗るのが夢でした。少年時代には友達になれなかった方々との出会い、触れ合いも思い出に残りますね」

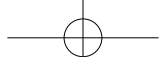
過去の絶版車歴はスズキGS400→カワサキZ400LTD→スズキ・バンディット→カワ



サキ・ゼファー1100→ゼファー750→Z1→350SSといたつた充実ぶり。このカフェレーサー仕様のZ1は、峠も走れる旧車として楽しんでいる。今後に乗ってみたい車種を挙げるなら、Z1Rだと話してくれた。



夢見た小学生から半世紀
 Z1のカフェレーサー仕様



速くて乗りやすい紫の750SSマツハⅢ



絶版車に魅せられて。



KAWASAKI 750SS

OWNER NAME

楠田 晶夫さん(45歳)

足回りはゴールドのハヤシ・キャストホイールに、マルゾッキ・サスを履く。紫の外装に合わせて、紫の蛍灯も光らせる。右3本出しチャンバーが迫力あり、黄色いPENZOILのオイル缶もナイスだ。

右3本出しチャンバーが男らしいサウンドで轟く

当時の服装は、汚れてもいい感じですね。これからマツハⅢと思い出を作っていきなさい」と話す。

楠田さんの絶版バイク歴は、カワサキZ750FX1↓ヤマハRZ250↓カワサキ750SSと乗り継いできた。昔からバイクが好きで、以前から欲しかった750SS(74年式)を絶版ウエマツで購入した。

愛車の仕様は、紫の外装に白い段シート、ハヤシのキャストホイール、マルゾッキのサスを装着する。目を引く右3本出しチャンバーは、スペシャルマフラー工作所の「神鳴」を鳴らしている。

「自分のコダワリは乗りやすさ、速さを大事にしています。バイクに乗

今後に乗りたい車種を聞くと、ホンダCBX1000やCB750Fという答えが返って来た。



学生時代を思い出して
ミドルを卒業し大型へ

「学生の頃バイクに乗っていて、昔懐かしくなって……。友人がみんな大型に乗り換えたので、自分もZ1に乗り換えました」と話す江崎さん。今までの絶版車歴は、カワサキ400SS→ホンダCB400Four→カワサキZ400FXとミドルを3台ほど乗り継いだ。

現在の愛車カワサキZ1（74年式）の仕様は、ロードベガサスのビキニカウル、シビエのヘッドライト、ハヤシのキャストホイールを装着する。エンジンは1015CCポアアップ仕様で、ヨシムラのTMRキャブに換装済みだ。

バイクに乗る時は60年代ファッションで、カミナリモータースのTシャツを愛用している。今後もし生かけて、このZ1を大切に乗り続けるぞうだ。

陽光に黒光りするZ1
妖艶なオーラを放つ



絶版車に魅せられて。



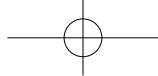
KAWASAKI Z1

OWNER NAME

江崎さん(57歳)

グレーメタリック×ブラック外装のZ1は、燃料タンクの「Kawasaki」ロゴとサイドカバーの「900」数字がさりげなく渋い。ロードベガサスのビキニカウルと相まって、凄みを増したオーラを放つ。





愛車Z1のカスタム仕様は、ビキニカウルを纏い、CRキャブとトーキョー鉄管に換装し、クリアな蛍灯も光らせる。「KAWASAKI」ロゴ入りの赤いブルゾンに、サングラスも良く似合う還暦ライダーだ。

友達とのツーリングで
Z1の魅力に出会った



KAWASAKI Z1

OWNER NAME

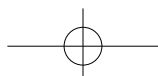
丸杉 十四三さん (60歳)

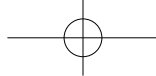
40年前はヨンフォア乗り
還暦を迎えて現役Z1乗り

「約40年前の大昔に、ホンダCB400FOURに乗ってました。バイク友達と出かけたツーリングで、カワサキZ1に乗せてもらい、とても気に入りました。ソロ・ツーリングで何度かガス欠になって、特に暑い夏場は大変でしたね」と丸杉さんは振り返る。

愛車のZ1は75年式で、タイガー外装のビキニカウル仕様が渋い。エンジン回りはCRキャブ、マフラーをトーキョー鉄管に交換し、心地良いエキゾースト音を楽しんでいる。

還暦とは思えない若々しい絶版ライダーで、他に乗りたい車種はないらしい。今後もオリジナルのスタイルを重視しながら、自分好みのカスタムを施して乗り続けるそうだ。





『特攻の拓』に憧れた
中学当時の記憶が蘇る

齋藤さんは中学生の頃、漫画『特攻の拓』を読んでバイクに興味を持った。以前は大型車のヤマハXJR1200に乗っていたが、ミドルのホンダCB400FOURに乗り換えた経緯を話す。

「XJR1200をカスタムし始めたら、『あがり』のバイクじゃない



な……」と気づいて、中学生の頃ヨンフォアに乗ってた当時の熱い感情を思い出しました。納車した次の日にポイントのコンデンサが故障……この先どうなることやら？
……と思いながらも、スグに修理してもらい、今は順調そのものですよ！」
旧車なので見た目はノーマルでも、乗りやすさも必要。そう考える彼は、LEDヘッドライトなど現代の快適アイテムも積極的に活用している。

愛車ヨンフォアは赤い74年式で、オリジナルを重視しながらプラスαのカスタムを施す。マーシャルのLEDヘッドライト、ハリケーンの手柄、リプロのメーター、ヨシムラの温度メーターを愛用する。



XJR1200からヨンフォアへ
乗り換えた理由は……



HONDA **CB400FOUR**

OWNER NAME

齋藤 純二さん(43歳)



一目惚れのインテグラは 撮影の前日に納車された



400SSレインボーに加え
ミドル・大型の2台持ち

昨夏の前々号V.O.10では、レインボー外装のカワサキ400SSとともに掲載した奥富さん。大型バイクの免許を取って、ホンダCB750Fインテグラにも乗りたくと話していた。その予告通り、今号では愛車CB750Fインテグラに乗って再登場を果たした。

「ワエマツさんへ見に行った時、昔から欲しかった綺麗なインテグラに出会い一目惚れしてしまいました。実は昨日ようやく納車されたばかりで、未永く大事に乗りたと思います」と話す。

ミドルの400SSと、大型のCB750Fインテグラ。どちらもノーマルっぽく乗りたい派で、他に欲しい車種は見当たらないという。夢の2台持ちを叶えた興奮は、今しばらく収まりそうもない。



念願だった愛車CB750Fインテグラ（83年式）は、撮影の前日に納車されたばかりだった。端正なビキニカウルに、サイドカバーの「CB750F INTEGRA」ロゴも誇らしい。モリワキの集合管マフラーを装着していた。

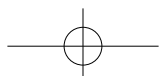


HONDA CB750F INTEGRA

OWNER NAME

奥富 昌孝さん(56歳)

絶版車に
魅
せられて。





KAWASAKI Z1B

OWNER NAME

古田土 輝康さん(47歳)

洒落たセパハン仕様で
ファッションもコーデ

地元の周囲の友人の影響で、バイクに興味を抱いた古田土さん。土砂降り雨の中を往復800kmも走ったツーリングが、今でも忘れられないと話す。

「バイク雑誌でウエマツさんを知って、スグに出かけてZ1を見て即決しました。3年前に購入して以来、今はイタリアン・カフェレーサーに夢中です」

愛車Z1BはグレースブラックのビモータHB-1外装に、究極まで下げたセパハン仕様で、派手過ぎずに渋く仕上げた。

カフェレーサーに合わせて全身コーデしたファッションも、オシヤレにキメている。今後の予定は、2ストも1台欲しいと狙っているそうだ。

愛車のカワサキZ1Bは75年式で、ビモータHB-1外装にセパハンをセット。BEETサイドカバー、ハヤシ・キャストホイール、モリワキMレジェンドモンスター、FCR33φキャブなどを装着する。

ビモータ外装を纏う イタリアン・カフェレーサー



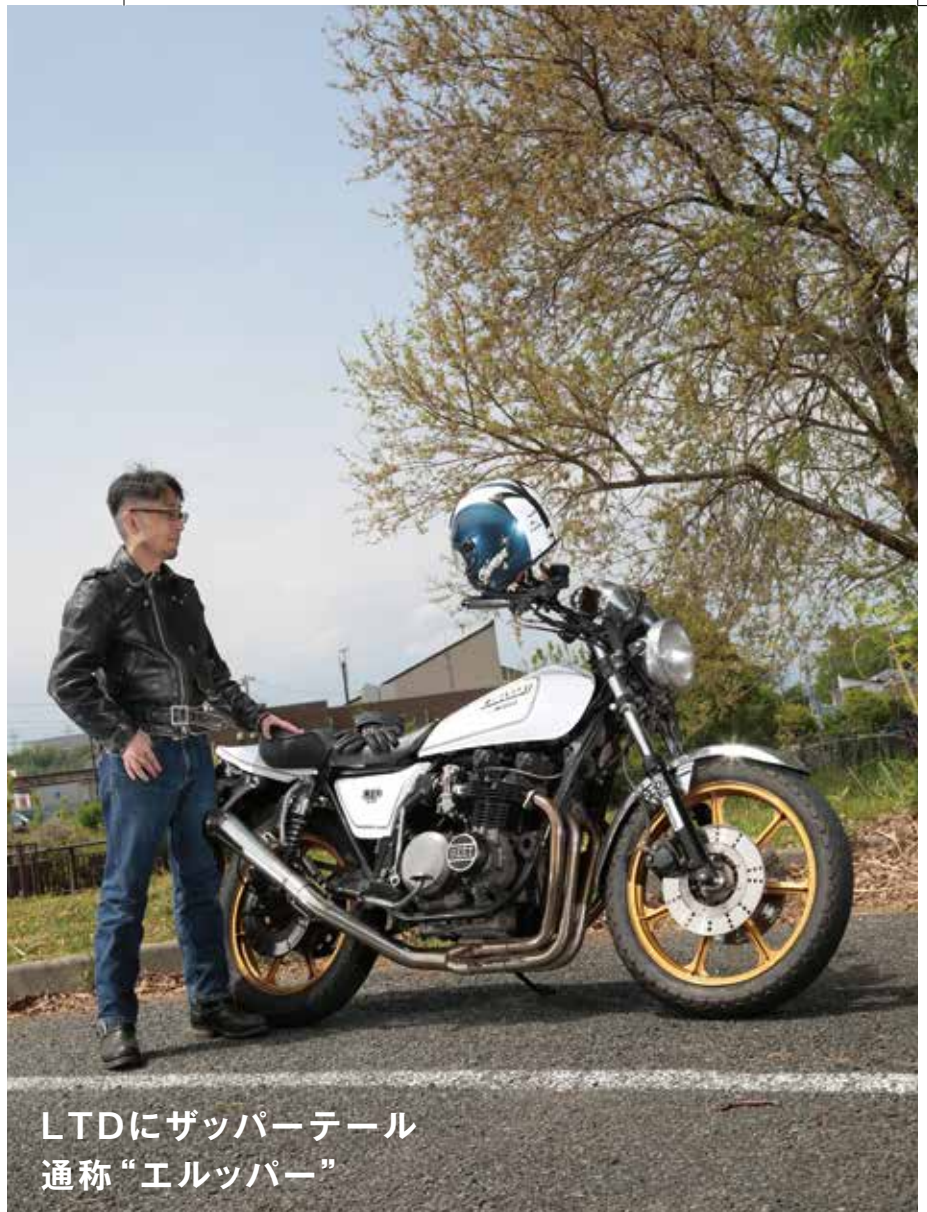


絶版車に魅せられて。

KAWASAKI Z650LTD

OWNER NAME

松原 史門さん(44歳)



LTDにザッパーテール
通称“エルツパー”

愛車のZ650LTDは79年式。足回りはゼファー750リアサスを移植し、フロントブレーキをラジアルマウント化。エンジンはワイセコピストン仕様で、FCR33φキャブ、ウオタニSP2、ミッドナイト除電ボルトを装着。



バイクへの興味は父と漫画『キリン』の影響

「バイクに興味を持ったきっかけは、父の影響と漫画『キリン』ですね。地元・静岡の先輩から、このザッパーを譲り受けました。LTDにザッパーテール、通称「エルツパー」です」と話す松原さん。

OZアート製のザッパーテールが特徴で、ホワイトにオールペンした

外装が眩しい。フルエキゾーストのヨニカルGPマフラーも迫力だ。

旧車の神が組んだエンジンを搭載し、今だに同じバイクと出会ったことがないらしい。「何？あのバイク？」って言われたい……と笑いながら、ザッパーに「生乗り続けたい」と決意している。

ちなみに、バイク乗りのファッションは、バインストームのチョイスケットとタイゾーが理想だと教えてくれた。